

# 自転車交通安全教育地域一体型プロジェクト

## 平成25年度事業報告



こまづきあんぜん  
交通安全テスト

このテストは、動画で説明書に乗ると共に、  
どんな道路（あるいは状況）があるかを辨別するテストです。  
答えは□の所に、できるだけ詳しく書いてください。  
たくさん書いたら、たくさん書いてください。

ここにたろう！  
はやく書きなさいな

『車』の音から道路を覚えて、おうちの公園に行こうとしています。

どんな道路（あるいは状況）があるのよ？

- ・お家から遠くまでからこぼれ落ちてしまおう。
- ・Dの道路のそばまで行くようにして書いてしまおう。
- ・お家から遠くまでからこぼれ落ちてしまおう。

どうすれば、あそびたいのよ？

- ・どうすればあそびたいのよ？、あそびたいのよ？やあそびたいのよ？をやる。
- ・あそびたいのよ？やあそびたいのよ？やあそびたいのよ？をやる。

しょうごころ  
小学校

学年	組	番	男	女

解答例（こたえかた）

平成26年3月

(一財) 日本交通安全教育普及協会



# 目 次

はじめに

1. 事業の概要 .....	3
2. 自転車交通安全教育推進委員会 .....	5
3. 事業の内容 .....	9
(1) 自転車交通安全教室の実施	
(2) 交通安全教育の授業研究会の実施	
(3) 平成25年度調査研究委員会の開催	
(4) 児童の危険予測・回避能力と意識調査	
(5) 事業の考察と課題	

## はじめに

自転車は、手軽で利便性が高い交通手段であること、健康・体力づくりにも有効であること、また、環境にも負荷の低い省資源型の移動手段であることなどから、子どもから高齢者まで多くの年齢層の人に利用されています。

他方、自転車の利用環境について見ますと、安全走行ができる空間が不足していること、近年における自転車事故の増加など多くの問題を抱えています。

平成25年中において、15歳以下の子どもの交通事故死者は94人、うち自転車乗用中が22人と、4分の1を占めます。少子化の中、これからの日本を担う世代の子どもが尊い命を失うということは憂慮に堪えません。

自転車は、小学1年生にあっても9割以上の者が保有しているという状況を考えると、歩行に次ぐ交通社会での第二のステップである自転車の安全教育を早期に行う必要が痛感されます。このため、私ども日本交通安全教育普及協会におきましては、早い段階から、危険予測能力や危険回避能力を高め、安全行動・危険回避行動がとれるよう教育することが重要だと考えています。また、この教育が成果を上げるためには、地域の方々が連携し一体となって推進していくことも必須です。このような観点から、自転車の交通安全教育にも力を注いでいるところであります。

当協会では、この一環として、平成19年度から各方面の御協力を得て、埼玉県において「自転車交通安全教育地域一体型プロジェクト」事業を実施して参りました。この事業は、幼稚園・保育園、小学校の幼児・児童やその保護者を対象として、地域の学校、警察や地域団体など、関係機関・関係団体等が一体となり、参加・体験型の自転車交通安全教育を行うものです。この事業は、幼児・児童が保護者と共に自転車の安全な乗り方を学び、安全意識・安全行動を向上させるとともに、地域の方々がこの事業を協働して行うことを通じ地域における「安全・安心なコミュニティづくり」に貢献することを目的としております。

平成25年度におきましては、埼玉県内10か所の幼稚園・保育園・小学校におきまして、幼児・児童及びその保護者を対象とした「自転車安全教室・自転車点検教室」を開催いたしました。また、この事業には、地域のリーダーの方々にも参加して頂き、地域における指導者の育成にも努めました。さらに、児童の「危険予測・回避能力」についての実態調査や、学校における交通安全指導者の資質向上を図るための授業研究会を実施いたしました。事業の詳細をまとめた報告書を作成いたしましたので、御高覧頂ければ幸いです。

平成25年度の事業につきまして御協力を頂きました各方面の関係者及びブリヂストンサイクル株式会社の皆さまに対しまして、厚く御礼申し上げます。

平成26年3月

一般財団法人 日本交通安全教育普及協会  
専務理事 川口 雄

# 1. 事業の概要

## 1. 事業の概要

### ◆事業の目的

近年、交通事故死者数や交通事故件数は減少傾向にあるものの、全交通事故に占める自転車事故の割合は依然として高く、自転車をめぐる交通情勢は厳しい状況にある。

本事業では、自転車が最初の身近な乗り物となる幼児・児童に対して、自転車の安全な利用の仕方を学ぶ交通安全教育を推進すると同時に、地域での指導者養成を図りながら、地域全体の自転車運転技能やマナーを向上させ、安全・安心の街づくりに包括的に貢献することを目的とする。

### ◆テーマ

地域を核とした小学生への自転車交通安全教育の展開と体制の確立

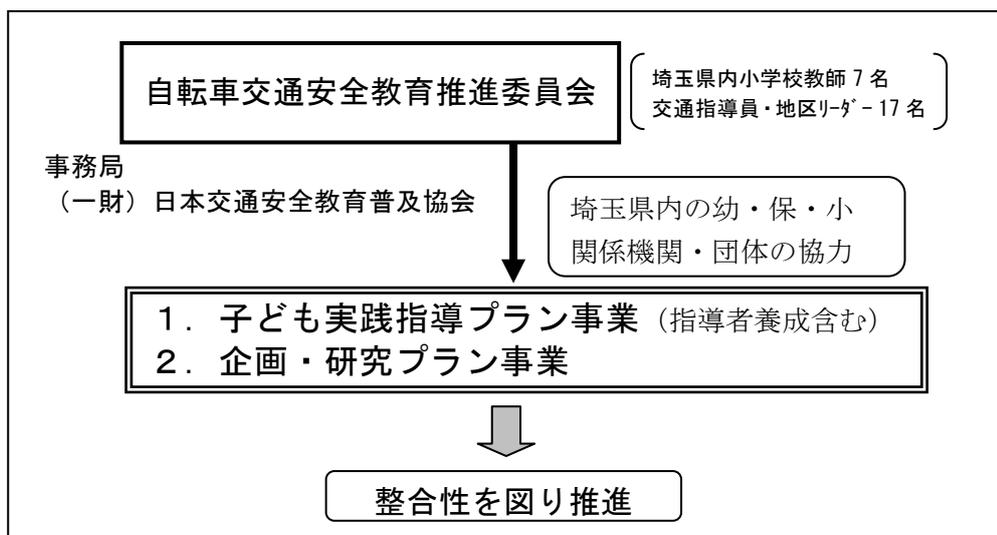
### ◆事業の背景

- ・自転車利用者の「ルール・マナー」が悪化（子供～大人）
- ・自転車事故が増加傾向（加害者：小学生 被害者：高齢歩行者 のケース）
- ・基礎教育の一環とした小学生からの交通安全教育が重要

### ◆具体的目標

- ・地域を主体とした指導カリキュラムと体制の確立
- ・地域内での自転車事故削減と交通安全意識の向上

### ◆実施体制と事業



## 2. 自轉車交通安全教育推進委員会

## 2. 自転車交通安全教育推進委員会

### ◆目的

本委員会は「自転車交通安全教育地域一体型プロジェクト事業」（以下「本事業」と言う）の円滑且つ効果的な推進を図ることを目的とする。

### ◆事業

本委員会は、上記の目的を達成するために次の事業を行う。

- ①委員会を開催し、必要な事項の検討等を行う。
- ②小委員会（調査研究委員会）の開催。
- ③必要に応じて「本事業」への指導、協力、視察等を行う。
- ④その他、本委員会の目的達成に必要な事業を行う。

### ◆小委員会（調査研究委員会）

本委員会は、上記の事業を推進するために、必要に応じて調査研究委員会を設置し、次の事業を実施する。

- ①小学校の児童・教師・保護者向け交通安全教育用教材の作成・普及
- ②幼児・児童対象のアンケート分析に基づく研究協議
- ③その他、必要とされる事業

### ◆事務局

本委員会の事務局は、(一財)日本交通安全教育普及協会に置き、次の事項を執行する。

- ①本委員会の開催等に関すること。
- ②各委員の委嘱や連絡調整等に関すること。
- ③関係資料等の作成や文書の処理等に関すること。
- ④その他、必要事項等に関すること。

### ◆その他

- ①本委員会の委員は、別紙のとおり。
- ②本委員会要項の実施に関し必要な事項は本委員会において決定する。
- ③本委員会要項は、平成19年4月より施行する。

平成 25 年度自転車交通安全教育推進委員会 委員名簿

※敬称略・順不同

◆企画研究プラン事業

No.	氏名	備考
1	猪狩 一史	朝霞市立朝霞第五小学校 教諭
2	伊藤 正和	狭山市立南小学校 教諭
3	関根 祐一	所沢市立北秋津小学校 教頭
4	永嶋 和実	さいたま市立河合小学校 教頭
5	細内 滋実	入間市立藤沢南小学校 教諭
6	西山 学	さいたま市立大宮北小学校 教諭
7	渡辺 中	富士見市立関沢小学校 教諭

◆子ども実践指導プラン事業

No.	氏名	備考
1	柴崎 正司	地区リーダー
2	岩崎 てる子	地区リーダー
3	岡安 節子	地区リーダー
4	桜井 英二	地区リーダー
5	佐藤 紀彰	地区リーダー
6	星野 裕子	地区リーダー
7	渡辺 雅子	地区リーダー
8	小宮 道子	地区リーダー
9	吉野 房子	地区リーダー
10	松本 達明	地区リーダー
11	吉田 正身	地区リーダー
12	日向野 彰	地区リーダー

No.	氏名	備考
1	内野 千恵子	交通指導員
2	小寺 恭子	交通指導員
3	手塚 素子	交通指導員
4	中村 久美子	交通指導員
5	和田 素実	交通指導員

柳 みか 県交通安全教育講師

◆事務局

1	西 則光	(一財) 日本交通安全教育普及協会 常務理事
2	成迫俊美	(一財) 日本交通安全教育普及協会 主幹
3	石川英司	(一財) 日本交通安全教育普及協会 次長
4	井澤夕里	(一財) 日本交通安全教育普及協会



### 3. 事業の内容と考察

### 3. 事業の内容

#### (1) 自転車交通安全教室の実施

さいたま市・上尾市内の幼稚園、保育園、小学校の園児・児童を対象に自転車の実技体験を通じて安全意識を醸成する自転車交通安全教室と自転車点検を計10回実施。指導者の養成を図るため地区リーダーも参加。

#### 幼稚園・保育園

##### ①大成保育園（さいたま市）

期 日：平成25年6月6日（木） 午前10時～11時

会 場：大成保育園「講堂」

参加者：大成保育園園児 22名

指導者：自転車交通安全教育推進委員

内 容：腹話術、パネルシアター、自転車の発進・停止、信号の意味



##### ②普門院幼稚園（さいたま市）

期 日：平成25年6月7日（金） 午前10時45分～11時45分

会 場：普門院幼稚園「講堂」

参加者：普門院幼稚園園児 147名

指導者：自転車交通安全教育推進委員

内 容：腹話術、パネルシアター、自転車の発進・停止、信号の意味



③大成幼稚園（さいたま市）

期 日 : 平成25年7月5日（金） 午前10時45分～11時45分  
会 場 : 大成幼稚園「講堂」  
参加者 : 大成幼稚園園児 73名  
指導者 : 自転車交通安全教育推進委員  
内 容 : 腹話術、パネルシアター、自転車の発進・停止、信号の意味



小学校

①大宮北小学校（さいたま市）

期 日 : 平成25年5月31日（金） 13時30分～15時30分  
会 場 : 大宮北小学校「グラウンド」  
参加者 : 大宮北小学校 3年生 42名  
指導者 : 自転車交通安全教育推進委員  
内 容 : 点検、乗車姿勢、ヘルメットの着用方法  
基本走行（信号交差点、信号のない交差点、駐車車両の側方走行）  
総合走行



②日進北小学校（さいたま市）

期 日 : 平成25年6月4日（火）〈1年生〉10時40分～11時25分  
          〈3年生〉13時30分～15時

会 場 : 日進北小学校「グラウンド」

参加者 : 日進北小学校 〈1年生〉132名 〈3年生〉145名

指導者 : 自転車交通安全教育推進委員

内 容 : 〈1年生〉 信号の意味、横断歩道の渡り方  
          〈3年生〉 点検、乗車姿勢、ヘルメットの着用方法  
                    基本走行（信号交差点、信号のない交差点、  
                    駐車車両の側方走行）、総合走行



③大成小学校（さいたま市）

期 日 : 平成25年6月22日（土） 10時～12時

会 場 : 大成小学校「グラウンド」

参加者 : 大成小学校 2・3・4年生 81名

指導者 : 自転車交通安全教育推進委員

内 容 : 点検・乗車姿勢・ヘルメットの着用方法  
          基本走行（信号交差点、信号のない交差点、駐車車両の側方走行）  
          総合走行



④東町小学校（上尾市）

期 日 : 平成25年9月3日（火）13時10分～15時30分  
会 場 : 東町小学校「グラウンド」  
参加者 : 東町小学校 3年生 141名  
指導者 : 自転車交通安全教育推進委員  
内 容 : 点検の仕方・乗車姿勢・ヘルメットの着用方法  
基本走行（信号交差点・信号のない交差点・駐車車両の側方走行）  
総合走行



⑤上平北小学校（上尾市）

期 日 : 平成25年10月2日（水）13時15～15時15分  
会 場 : 上平北小学校「グラウンド」  
参加者 : 上平北小学校 3年生・4年生 72名  
指導者 : 自転車交通安全教育推進委員  
内 容 : 点検の仕方・乗車姿勢・ヘルメットの着用方法  
基本走行（信号交差点・信号のない交差点・駐車車両の側方走行）  
総合走行



⑥原市南小学校（上尾市）

期 日 : 平成25年10月17日（木） 13時15分～15時15分  
会 場 : 原市南小学校「グラウンド」  
参加者 : 原市南小学校 3年生 92名  
指導者 : 自転車交通安全教育推進委員  
内 容 : 点検の仕方・乗車姿勢・ヘルメットの着用方法  
基本走行（信号交差点・信号のない交差点・駐車車両の側方走行）  
総合走行



⑦芝川小学校自転車点検（さいたま市）

期 日 : 平成25年10月19日（土） 11時～12時30分  
会 場 : 芝川小学校「校舎前」  
参加者 : 芝川小学校 児童・保護者 計73台を点検  
指導者 : 自転車整備士（ブリヂストンサイクル株式会社）  
内 容 : 参加者の自転車を点検・指導



自転車安全運転証の交付      自転車点検カード

自転車交通安全教室に参加した小学校の児童に交付。法的な効力性はないが、本事業に参加した証として子ども達の誇りと励みになり、今後自転車を「車両」として利用する自覚や意識の定着化を促進するために交付。

自転車安全運転証	
氏名	○○○○ 平成 年 月 日生
学校名	○○市立○○小学校 血液型 型
写真	番号 00000000000000 交付 年 月 日 <div style="text-align: right; font-size: small;">財団法人日本交通安全教育普及協会</div>

自転車点検カード				
年 名 前				
点検箇所	点検の要点	点検日 10/19	チェック	
1 サドル	○またがって背 <sup>せ</sup> がつか ○ぐらついていないか			
2 ハンドル	○まがっていないか ○ぐらついていないか			
3 ベル	○音がよく出るか ○ならしやすい場所にあるか			
4 ペダル	○よく回るか ○水平 <sup>すいへい</sup> になっているか			
5 タイヤ	○空気 <sup>くわき</sup> の入りはよいか ○みぞはすりへっていないか			
6 ブレーキ	○車 <sup>くるま</sup> 体をもちあげて車 <sup>くるま</sup> りんを回してすぐ止まるか			
7 ライト	○明るくつくか ○正面 <sup>しょうめん</sup> を向いているか			
8 チェーン	○ゆるんでいないか			
9 反 <sup>さか</sup> しゃき	○よごれていないか			
10 車 <sup>くるま</sup> 全体	○ねじはゆるんでいないか ○がたがた、キーキーという音はないか			

※チェックされていないところは、いつものお店で<sup>きん</sup>点検<sup>てんけん</sup>か<sup>しゆり</sup>修理<sup>しゆり</sup>をして下さい。

## (2) 交通安全教育の授業研究会の実施

当協会が作成した教師用指導資料「新たな安全教育指導プログラム」を学校現場での授業を通して活用し、教師が児童の危険予測・回避能力を一層高められる効果的な授業づくりの展開方法と指導力向上を図る。

期 日 : 平成25年12月3日(火)

会 場 : 上尾市立平方東小学校

共 催 : 上尾市教育委員会

参加者 : 市内・校内教職員

内 容 : 授業研究(13:40~14:25)

授業者 磯部 元孝 先生(5年生担当教諭)

テーマ 「止まっている車をよけるとき」

研究協議会(15:00~16:30)

指導助言者 浅沼 正義 先生(上尾市教育委員会 指導主事)

指導助言者 成迫 俊美(日本交通安全教育普及協会 主幹)



## 第5学年1組 学級活動指導案

平成25年12月3日(火)第5校時

場 所 第5学年1組教室

児童数 28名

指導者 磯 部 元 孝

### 1 題材「止まっている車をよけるときの」

内容(2)「日常生活や学習への適応及び健康安全」

### 2 児童の実態と題材設定の理由

本題材は、小学校学習指導要領特別活動(2)「日常生活や学習への適応及び健康安全」の「心身ともに健康で安全な生活態度の形成」に基づいて設定したものである。

本校は団地から通っている児童が半数を占めている。団地内では自動車はそれほどスピードを出していないが、見通しが悪い交差点や道幅の狭い道路などが多い。また、学校周辺には幹線道路も近くであり、車通りが多い。団地内や周辺道路とも交通事故が起こる可能性が高いのが現状である。

本校では、交通安全の指導については登校指導や講話朝会、学級指導や交通安全教室等を通して行っており、児童は真剣に話に耳を傾けている。しかし、放課後の児童の様子を見ると、「一時停止をする。」や「飛び出さない。」等、指導した内容が実際に活かせていない児童が見られる。特に自転車の運転に関しては「団地内は危なくない。」という意識の甘さからか、スピードを出して運転したり、急に飛び出したりしている児童を多く見かける。交通安全指導の下、児童一人一人が危険を予測して危険回避を実施する能力を身につけさせたい。

本学級は明るく活発な児童が多い。しかし、廊下歩行の様子を見てみると、ついつい廊下を走ってしまう児童を見かける。また、廊下の曲がり角で出会い頭にぶつかってしまう児童もいた。廊下歩行の危険を予測できていない。事前に行ったアンケートによると、28名全員が自転車を使用すると答えており、そのうち11名の児童が自分は自転車の運転がうまいと答えている。また、その中で8名の児童が自転車での事故には遭わないと答えている。自転車の運転に自信があり、自分は事故に遭わないだろうと人ごとのように考えている児童が少なくないという現状である。

また「自転車に乗る時はどんなことに気をつけているか。」という問いに対しては、「周りをよく見る。」「飛び出しはしない。」「スピードを出さない。」という答えがあった。中には「道路を横断するときは左右の確認をする。」や「曲がる時などは一回停まってから曲がる。」「横断歩道を渡る時は、自転車を降りて横断する。」など具体的な点に気がつけている児童もいた。ほぼ全員が自転車の運転に安全を意識しているという実態であった。

しかしながら、自転車での「ヒヤリ」「ハット」体験では「見通しのきく交差点で、緊急車両とぶつかりそうになった。」や「先の見えないカーブで人とぶつかりそうになって、転んでしまった。」「見通しの悪い曲がり角に車が急に現れて、ヒヤッとした。」や「交差点で左右確認を怠り、車とぶつかりそうになった。」など、多くの児童が「ヒヤリ」「ハット」体験をしている。「運転に自信があり、運転にも気を遣っているから自分は大丈夫だろう。」という思いとは反対に、実際には危険な場面に遭遇している児童が多い。今、この場で危険なことが起きるかもしれないと予測をする力がついていないと考えられる。

そこで、危険感受性の向上や危険回避能力の育成を目指した学習を行い、危険予測や危険回避の能力を向上させることが、児童の安全行動に対する判断力・実践力を身につけることにつながると考え、本題材を設定した。

## 指導案 (2/7)

本題材を取り扱うにあたり、実際の生活圏内での危険な箇所の映像を見せたり、今までの「ヒヤリ」「ハット」体験を想起させたりすることを通して、児童一人一人が本題材の内容について自分のこととして考えられるようにしていきたい。また、危険回避方法を選定・検証する際には、個だけでなくグループの中で話し合わせ、多様な考え方を知る機会を設けさせることにより、児童の「よりよい安全行動を判断できる能力」を育てたい。また、実践化のためのめあてを教室に掲示し、継続的に安全行動を実践する意識をもたせていきたい。

### 3 指導のねらい

- ①生活圏内での危険な箇所の映像を見せることで、児童に交通事故を自分のこととして意識させる。
- ②注目させたいポイントに印をつけたワークシートも準備することで、戸惑っている児童にも危険を予測させる。
- ③事故は人的要因と環境要因が関わって起こることが多いことを理解させることで、児童に事故の理由を考えやすくさせる
- ④仮説設定場面では、個だけでなくグループの中で話し合わせ、多様な考え方を知る機会を設けさせることで、よりよい安全行動を判断できる能力を育てる。
- ⑤検証の場面では、実際に児童に設定した仮説の動作を取り組ませることで、より具体的に有効性を検討させる。
- ⑥設定しためあてを教室に掲示したり、学年便り等で家庭との連携を図ったりすることで、交通安全への事後の意識化を図る。

### 4 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・実践	知識・理解
自転車の安全な乗り方に関心をもち、今後の生活に活かそうとしている。	安全な自転車の乗り方を身につけるために、危険予測や回避の方法を考えようとしている。	事故に遭わないために安全な自転車の乗り方を理解している。

### 5 事前指導

月日(曜日)	活動の内容	・指導上の留意点
11/20(水)	・児童の実態調査(交通安全についての意識、行動アンケート)を行う。	・交通安全に対する意識を高める。
11/26(火) ～ 12/2(月)	・上尾市の自転車事故の現状について知る。	・自分の身近なところでも交通事故が起きていることを知り、交通事故を自分の問題とする意識を持たせる。

### 6 教育に関する3つの達成目標との関連

#### 規律ある態度

- ・名前を呼ばれたら「はい」とはっきり返事することができる。
- ・先生の話や友達の発表をしっかりと聞き、発表することができる。
- ・時と場に応じた正しい言葉づかいができる。

指導案 (3/7)

7 本時のねらい

- ・交通状況を読み取り、起こりうる危険を予測できるようにする。
- ・停車車両を避けて通る際の安全行動を身につけられるようにする。
- ・交通社会の一員として、周囲へ配慮した自転車の運動ができるようにする。

8 展開

	学習活動	指導上の留意点(・)と評価	資料
導入	<p>○問題を把握する。</p> <p>1 事前調査結果や最近の事故ニュースなどから、感じたことを発表する。</p> <p>2 問題場面を知る。</p>	<p>・「交通事故の現状」「事故事例」「アンケート結果」等から交通事故を自分の問題として受け止めさせ、何とかしてはならないという意識を持たせる。</p> <p>・身近な交通場面の写真を掲示する。</p>	<p>資料</p> <p>新聞記事の抜粋</p> <p>事故現場</p> <p>写真</p> <p>場面写真</p> <p>場面写真</p>
	<p>自転車が進んでいる車を追い越そうとしています。 どんな危険が起こりそうですか？</p> 	<p>(場面の読み取り)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車に乗っている。</li> <li>・前の白い車が止まっている。</li> <li>・緑石があって歩道に入れない。</li> <li>・車の右側を通らないとよけきれない。</li> <li>・前から黒い車が来ている。</li> </ul>	
展開	<p>○場面を分析する。</p> <p>3 起こりうる事故を予測する。</p> <p>4 事故の理由を考える。</p>	<p>・交通場面から読み取れるものを、できるだけ多く発表させる。(どんな意見も受け入れる雰囲気作り)</p> <p>T「このまま道路を走っていくと、どんな危険が起こりそうですか。」</p> <p>[予想される児童の反応]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・車を右側によけると、前の対向車とぶつかる。</li> <li>・車を右側によけると、後続車にぶつかる。</li> <li>・車の前から人が出てきてぶつかる。</li> <li>・自動車のドアが開いてぶつかってしまう。</li> <li>・車を右側によけると、止まっている車が急発進してぶつかってしまう。</li> </ul> <p>・交通状況から読み取れる危険を、できるだけ多く発表させる。(なぜ危険なのか理由を明らかに)</p> <p>T「どうして事故が起きたのでしょうか。事故の理由を考えましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事故の原因には人的要因と環境要因の両方が関わって起こることが多い事を理解させて、児童が事故をどのように避けられるか、考えやすくさせる。</li> </ul>	<p>ローバー</p> <p>資料</p> <p>写真</p> <p>場面写真</p>

<p>【人的要因】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全確認をしない(めんどくさい)</li> <li>・油断(たぶん大丈夫だろう)</li> <li>・思い込み (相手がよけてくれるだろう)</li> <li>・避けようとして大きく対向車線にはみ出してしまう。(運転技術)</li> <li>・友達との約束。塾の時間(焦り)</li> <li>・考え事をしている(悩み)</li> </ul>	<p>【環境要因】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・停車車両による死角(対向車・横断者)</li> <li>・縁石のため左側の歩道に入れない。</li> <li>・後続車の危険</li> <li>・停車の目的(降車のためドアが開き衝突)</li> </ul>	
<p>・自転車が急に右側に進路変更すると、同様の後続車から追突される。</p> <p>・停車車両の脇を通過中、降車のため急に右側のドアが開き衝突する。</p> <p>・前方の対向車と逃げ場がなくなり衝突する。</p> <p>・停車車両の脇を通過中、停車車両が急発進したため衝突する。</p>		
<p>○仮説を設定する。</p> <p>5 危険回避方法(安全行動)を選定する。</p>	<p>T「どうしたら危険を防ぐことができますか？安全な行動を考えましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人→グループ→全体という話し合いの活動を持つ。</li> <li>・回避方法を考え、理由を明らかにしながら発表させる。</li> <li>・単に「一旦停止する」「安全確認する」というのではなく、交通場面の特徴を含め具体的に発表させる。</li> <li>・車で隠れて見えない「潜む危険」についても意識させる。</li> </ul>	<p>ワークシート</p>
<p>【予想される児童の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・止まっている車をよけるために道路中央に出る場合は、前方・後方の安全確認をしっかりと行う。より安全な行動としては、自転車を停車または降車して安全確認する。</li> <li>・後方から来る車がないかを確認する。もしいた場合、一時停止してやり過ごす意志を示す。</li> <li>・相手の立場になって考えてみる。いきなり飛び出して来るとは思っていないことを意識する。</li> <li>・停止している車に人が乗っていないか確認する。乗っている場合はベル等でそこにいることを意思表示する。</li> <li>・停車車両の様子に気を配り、対向車・後続車の確認をしてから側方を徐行することが大切。より安全な行動としては、自転車を停車または降車して安全確認する。</li> </ul>		
<p>○仮説を検証する。</p> <p>6 選定した危険回避方法を検証する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分なりの行動基準とその有効性を検討する。</li> <li>・班別のまとめを発表し合い、理解を深めさせる。</li> <li>・発表された危険回避方法が具体的かどうか、意見を出し合って確認させる。(模擬的な検証)</li> <li>・重要な安全行動が児童から出ない場合には、必ず教師が補足する。</li> </ul>	<p>ビデオ映像</p>
<p>○安全行動を適用する。</p> <p>7 安全行動を実践化できるようにする。</p>	<p>T「止まっている車を安全に追い越すためのめあてを考えましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合ったことを基にして、交通安全の自分のめあてをもち、各自が行動目標を立て、実践化・習慣化を目指す。</li> </ul> <p>【評価 めあてシート】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・停車車両を避けて通る際の安全行動を考慮することができる。</li> </ul>	

指導案 (5/7)

9 事後指導

月日(曜日)	活動の内容	・指導上の留意点
12/3(火)	・家庭でも話題にさせ、家庭の交通安全についても考えさせる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・めあてをもとに自分の生活について振り返らせ、安全に自転車を走行しようとする意識を高める。</li> <li>・事後アンケートで安全運転の意識を高めさせるとともに、学区内の危険個所の情報収集して、児童に共通理解させる。</li> </ul>
12/16(月)	・事後アンケートを実施し、児童の意識・実践調査を行う。	
※継続して	<ul style="list-style-type: none"> <li>・めあてを教室内に掲示し、継続して交通安全の意識化を図る。</li> <li>・学区内の危険個所を教室内に掲示して、継続して交通安全の意識化を図る。</li> </ul>	

10 資料

- ・交通安全アンケート
- ・めあてシート
- ・ワークシート
- ・事後アンケート

交通安全アンケート

名前( )

☆あてはまるものに○をつけましょう。

(1) 自転車に乗りますか？

【 はい いいえ 】

(2) 自転車の運転はうまい方だと思いますか？

【かなりそう思う そう思う わからない そう思わない 全くそう思わない】

(3) 自転車に乗っていて事故にあわない自信がありますか？

【自信がある 少し自信がある わからない あまり自信がない 自信がない】

(4) 自転車の運転で気をつけていることがありますか。または、気をつけようと努力していることはありますか？

(5) 自転車に乗っていて、「ヒヤリ」としたり「ハット」したりしたことがありますか？一番最近のことを書きましょう。

交通安全アンケート パート2 名前( )

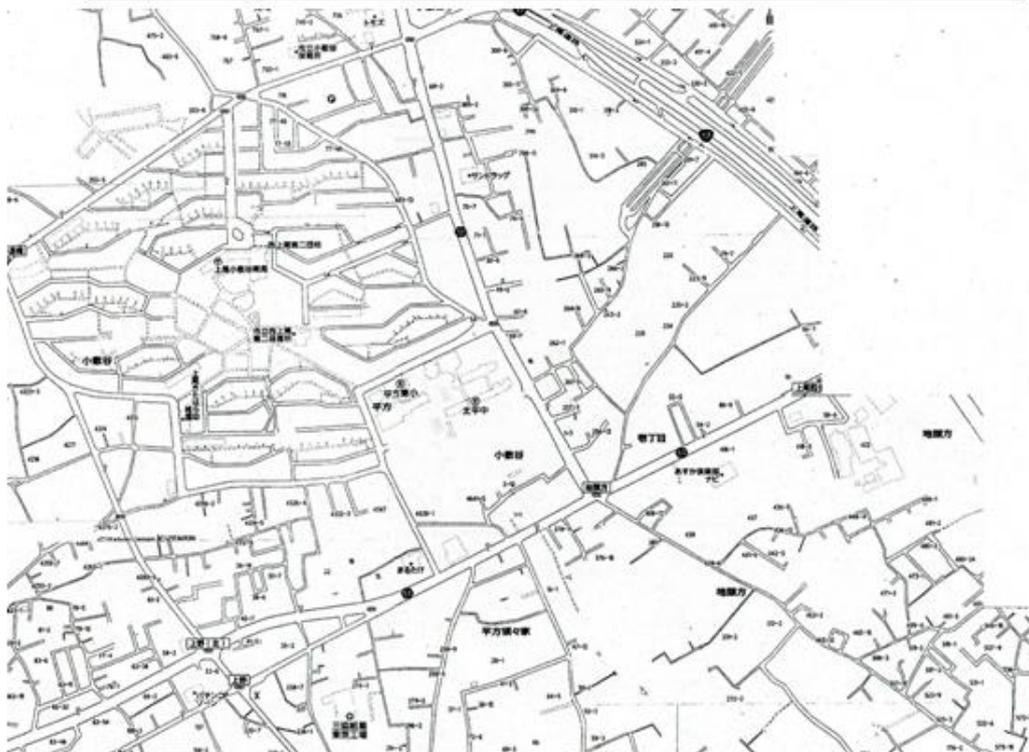
○交通安全の勉強に取り組んだみなさんに聞きます。

(1) その後、めあてを意識して安全な運転を心がけていますか？

【 はい いいえ 】

(2) 平方東小学校の学区で、自転車を運転していて「危ないな。」「事故が起こりそうだな。」と思うような場所がありますか。その場所と、「危ないな。」「事故が起こりそうだな。」と思う理由を書きましょう。また、下の地図上で、その場所にあたる所に赤で印をつけましょう。

場所	理由



※夕ぐれ時は早めにライトを点灯しましょう。夜は必ずライトを点灯するとともに、明るい色の服を着て反射材を身につけましょう。

(3) 平成25年度調査研究委員会の開催（年2回）

児童の危険予測・回避能力と意識調査（内容は次項（4）参照）について、内容を検討の上、実施。

<日程表>

	日時・場所	協議内容
第1回	6月25日（火） 15:00～17:00 市民会館うらわ	・危険予測・回避能力テスト、意識調査アンケートの内容検討 ・その他
第2回	11月28日（木） 15:00～17:00 埼玉会館	・児童の危険予測結果と意識調査のまとめ ・実践授業の成果と課題の検討

(4) 児童の危険予測・回避能力と意識調査

調査研究委員会（内容は前項（3）参照）にて検討した内容に基づき、以下の要領で調査を実施した。

1) 調査の流れと概要

1. 対象クラスの児童について、危険予測・回避能力をテスト形式で調査する。  
あわせて交通ルール・マナーについての実態をアンケート方式で調査する。
2. 対象クラスの児童に、危険予測・回避能力学習の授業を行う。
3. 対象クラスの児童に、危険予測・回避能力のテストを再度行い、変化をみる。

対象校： 埼玉県内7小学校

対象クラス：

・危険予測・回避能力テストの対象

・ルール・マナーのアンケートの対象

対象者	人数	対象者	人数
第2学年児童	29名	第1学年児童	135名
第3学年児童	21名	第2学年児童	131名
第4学年児童	30名	第3学年児童	198名
第6学年児童	40名	第4学年児童	184名
合計	120名	第5学年児童	97名
		第6学年児童	261名
		合計	1,006名

※アンケートはより広くデータを取るため、危険予測・回避能力テストの対象クラス以外についても実施した。

2) 調査の内容

a) 危険予測・回避テスト

調査項目は、文部科学省の「危険予測学習教材」を参考に、自転車乗車中の交通安全に関する危険予測4問・危険回避4問とし、自由記述で回答させた(表1)。

評価は、「危険予測・危険回避得点キーワード」を作成し、回答に含まれるキーワードによって0点、1点、2点を与えた(表2)。採点では、児童の発達段階を考慮し、誤字・脱字等があっても意味の伝わるものは正解とみなした。また、キーワード以外のものは原則として採点の対象としないこととしたが、イラストから予測される、交通場面として適当な危険であれば、加点の対象とした。

なお、児童にとって、このような調査は未経験と思われるので、テスト表紙に例題と回答例を示した。

表1 危険予測・回避テスト (計4問)

こうつう あんぜん  
**交通安全テスト**

このテストは、道路で自転車に乗るときに、  
どんな危険(あぶないこと)があるかを見つけるテストです。  
答えは□の中に、できるだけわしく書いてください。  
たくさん見つけたら、たくさん書いてください。



しょうがっこう  
**小学校**

ねん 年	くみ 組	ばん 番	おとこ 男	おんな 女
---------	---------	---------	----------	----------

かいとうれい  
**解答例 (こたえかた)**



くるまのまの間から道路を渡って、むこうの公園に行こうとしています。

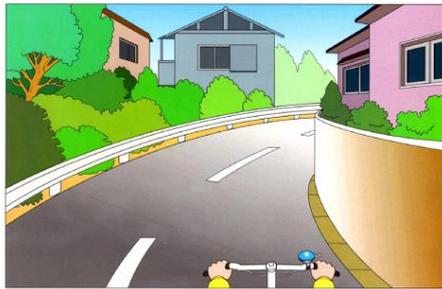
**どんな危険(あぶないこと)がありますか?**

- ・みぎがわのくるまがうごきだしてぶつかってしまう。
- ・ひだりがわのくるまがバックしてぶつかってしまう。
- ・はんたいがわのしゃせんにくるまがでてきてぶつかってしまう。

**どうすれば、あぶなくないですか?**

- ・どろろをおうたんするときは、おうたんほどやほどきょうをわたる。
- ・おうたんほどやほどきょうがないときは、みぎ・ひだりのあんぜんをたしかめてわたる。

表紙：解答例を記載

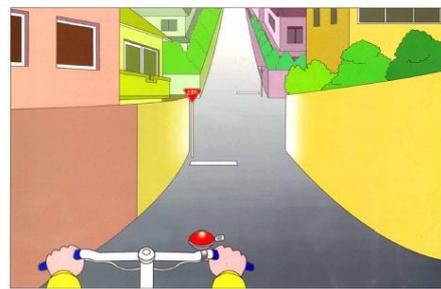


1 自転車<sup>じてんしゃ</sup>で、まがった道路<sup>まがったどうろ</sup>を走っています。

どんな危険<sup>けんけん</sup>（あぶないこと）がありますか？

---

どうすれば、あぶなくないですか？



2 自転車<sup>じてんしゃ</sup>で、坂道<sup>さかみち</sup>をくだっています。

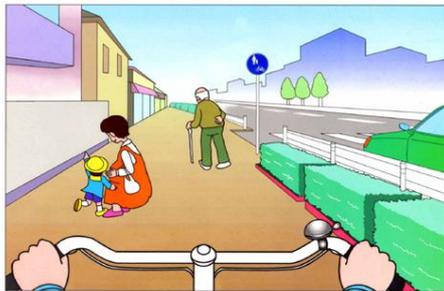
どんな危険<sup>けんけん</sup>（あぶないこと）がありますか？

---

どうすれば、あぶなくないですか？

1 : 「自転車の右側走行（カーブ）」

2 : 「坂の下の交差点の一時停止無視」

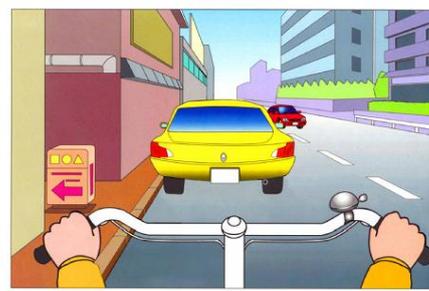


3 自転車<sup>じてんしゃ</sup>で、歩道<sup>ほどう</sup>を走っています。（自転車も走ってよい歩道です）

どんな危険<sup>けんけん</sup>（あぶないこと）がありますか？

---

どうすれば、あぶなくないですか？



4 自転車<sup>じてんしゃ</sup>で、交差点<sup>こうさつてん</sup>をまっすぐ進もうとしていたら、前の車<sup>まへくるま</sup>がスピードをおとしました。

どんな危険<sup>けんけん</sup>（あぶないこと）がありますか？

---

どうすれば、あぶなくないですか？

3 : 自転車の歩道走行

4 : 自転車での駐車車両の追い越し

表2 得点キーワード表

危険予測 得点キーワード表

NO	場面	得点	1点		2点
			一般的注意・自損事故・危険行為	浅い危険予測(見える危険)	深い危険予測 予測させたい危険 (見えない危険・心理・人の特性)
1	自転車の右側走行 (カーブ)		「下り坂」 「転倒」 「曲がりきれない」 「壁・ガードレールにぶつかる」 「後ろから車が来る」	前から車が来る。 「前から来た車にぶつかる」 「カーブの先から車が来るかも」	カーブの先が見えない。 「カーブの先が見えない」 「車が来るか分からない」 「カーブの死角」 (その他) 「右側走行の危険」 「車から自転車が見えない」
2	坂の下の交差点の一時停止無視		「転倒」 「壁・標識にぶつかる」 「前から車が来る」 「単なるスピードの出し過ぎ」 「単に止まらない」	交差点の認識 「止まれる標識がある」 「止まれる標識で一時停止」 「左右から車が来る」 「急に車が出てくる」	一時停止無視 「スピードを落とさず交差点へ」 「ブレーキがきかず交差点へ」 「一時停止を無視」 「そのまま突っ切って」 「飛び出してぶつかる」 「一時停止＋左右確認」
3	自転車の歩道走行		「スピードの出し過ぎ」 (幼児・妊婦・老人の区別なし) 「人にぶつかる」	交通弱者の認識 「幼児・妊婦・高齢者」 「杖をついている」 (その他) 「横断歩道を横断してくる」	交通弱者の特性 「予期せぬ動き、飛び出し」 「聞こえにくい、気づかない」 「不自由、すばやくよけられない」 (その他) 「後ろ向き、気づいていない」
4	自転車での駐停車両の追い越し		「追突」 「転倒」	停車車両が動く。 「駐停車両が走り出す・バック」	対向車等にぶつかる。 「対向車」 「後ろからの車」 「曲がり角からの車」 「車道中央に出る危険」 「停止車両のドアが開く」

※無記入・無回答は0点

危険回避 得点キーワード表

NO	場面	得点	0点	1点	2点
1	自転車の右側走行 (カーブ)	無記入 無回答	「右端を通る」 「右端に寄る」 「ヘルメットをかぶる」 「自転車を押して歩く」	対向車の危険の認識 「対向車に注意しながら走る」 「ベルを鳴らしながら走る」	左側走行 「左側を走行する」
2	坂の下の交差点の一時停止無視	無記入 無回答	「転倒しない」 「標識にぶつからない」	スピードの危険の回避 「スピードを出さない」 「ブレーキをかけながら坂を下りる」	交差点での一時停止 「交差点で一時停止」 「交差点で一時停止できるようにスピードを落としながら坂を下る」
3	自転車の歩道走行	無記入 無回答	「歩道を通らない」 「気をつける・よく見る」 「よける・よけながら進む」 「端を通る」 「車道を通る」	安全走行 「ゆっくり走る・スピードを落とす」 「ブレーキの準備をする」 「ベルを鳴らす・声をかける」 「無理な追い越しをしない」 「一時停止」	歩行者優先 「自転車を降りて押して歩く」
4	自転車での駐停車両の追い越し	無記入 無回答	「別の道を通る」 「駐停車両の左を通る」 「駐停車両が動くまで待つ」 「道路の右側に渡る・右側を通る」	一般的注意・駐停車両への注意 「すばやく通る」 「駐停車両が動かないか確認」 「スピードを落とす」 「止まる」	車道へ出る際の安全確認 「車(後方・対向車)が来ないか確認」 「前後左右の安全確認」 「少しでも顔を出して安全確認」 「自転車を降りて押してよける」

b) ルール・マナーのアンケート

調査項目は、危険予測に関するルール・マナーについて7問とした。回答方法は4段階の選択式とした（「いつも」「だいたい」「あまり」「しない」）（表3）。

表3 アンケート

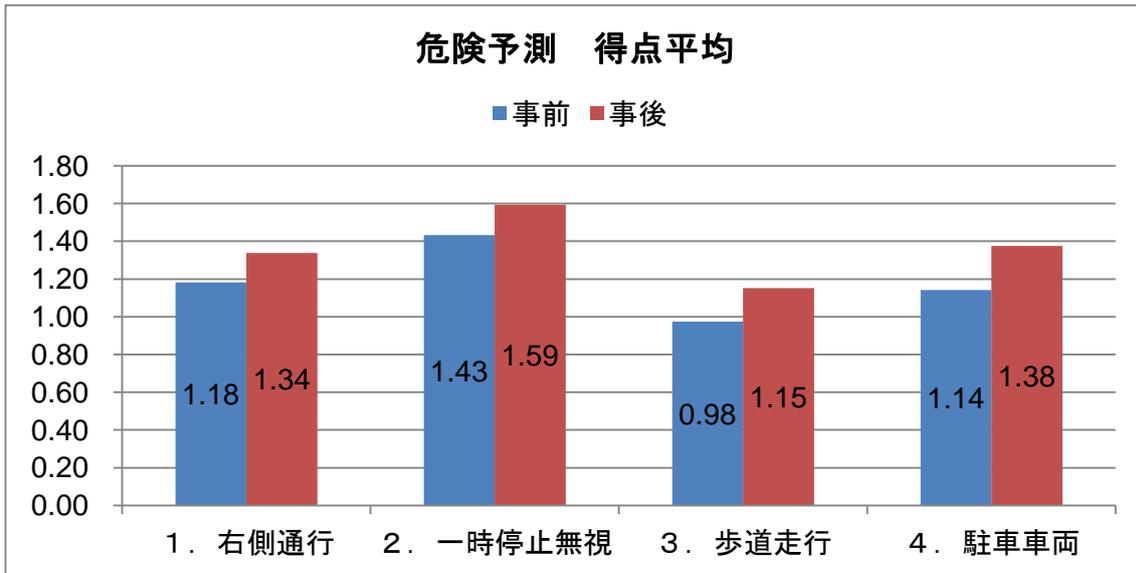
ルール・マナーの交通安全アンケート <small>しょうがっこう ねん くみ ばん おとこ おんな</small> 小学校 年 組 番 男・女					
自分のふだんの行動に、いちばん近いものに○をつけましょう。					
1	道路を歩くときは、 <small>車</small> に気をつけて歩く。	いつも あるく	だいたい あるく	あまり あるかない	あるかない
2	道路をわたるときは、 横とまって右左を見る。	いつも みる	だいたい みる	あまり みない	みない
3	自転車にのるときに、かなりスピードを出す。	いつも たす	だいたい たす	あまり たさない	たさない
4	ともたちと道路を歩くときに、 横にひろがって歩く。	いつも ひろがる	だいたい ひろがる	あまり ひろがらない	ひろがらない
5	横断歩道があれば、 すこし遅くても横断歩道をわたる。	いつも わたる	だいたい わたる	あまり わたらない	わたらない
6	まわりの人が信号無視をしても、 自分は信号をまもる。	いつも まもる	だいたい まもる	あまり まもらない	まもらない
7	自転車に乗る前に、自転車点検をする。	いつも する	だいたい する	あまり しない	しない

### 3) 調査の結果

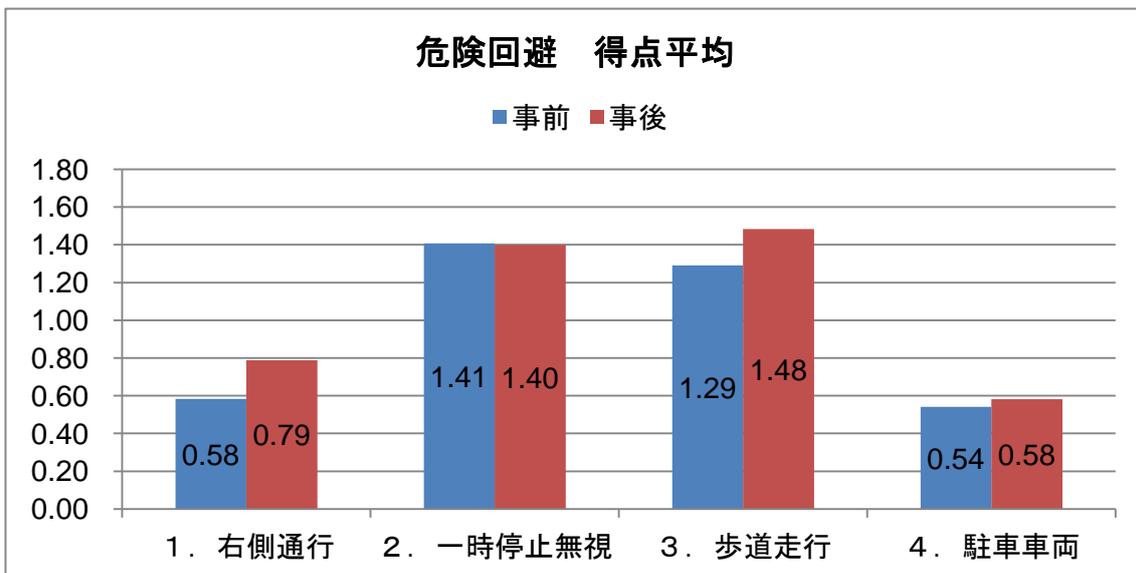
#### a) 危険予測・回避テスト

危険予測・回避については、設問別に事前調査（授業前実施）と事後調査（授業実施後）の差異について比較した。

危険予測は、各設問いずれも事後調査の数値が事前を0.1ポイントから0.2ポイント程度上回った。問題別にみると、事前・事後ともに、2「坂の下の交差点の一時停止無視」が最も得点が高く、3「自転車の歩道走行」が最も得点が低かった。



危険回避については、問題によって変化のみられたものとみられなかったものに分かれた。1「自転車の右側走行（カーブ）」、2「自転車での駐車車両の追い越し」については、事後調査が事前調査を0.2ポイント程度上回ったが、他の2問には変化がみられなかった。問題別にみると、事前・事後ともに1「自転車の右側走行（カーブ）」と4「自転車での駐車車両の追い越し」が他の2問よりも低い得点となった。

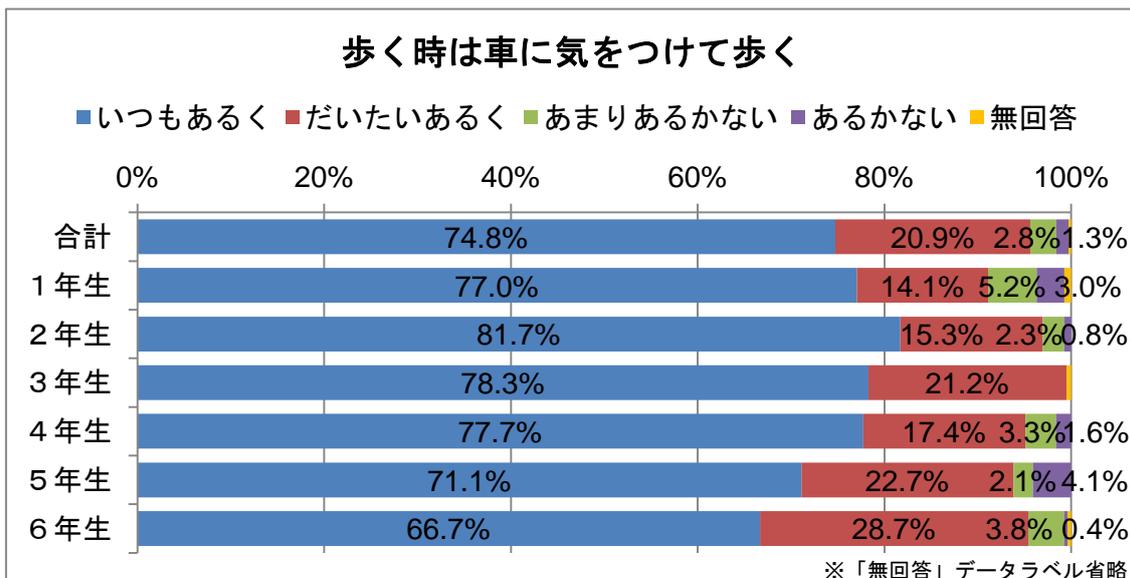


b) ルール・マナーのアンケート

アンケートの結果については、学年別に回答の構成率を比較した（構成率が低いデータについては、一部データラベルを省略）。

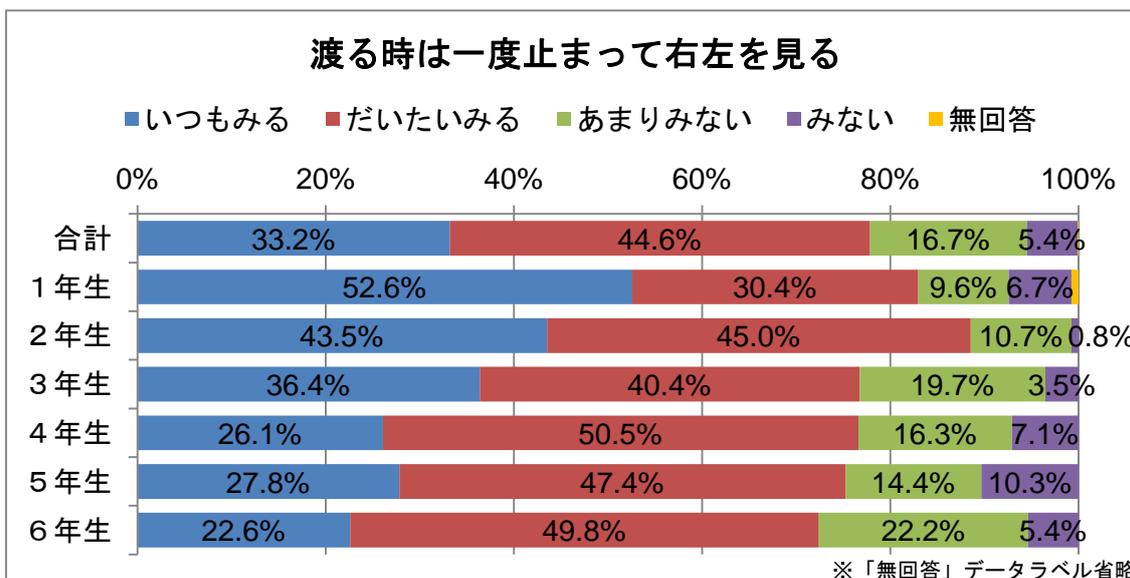
1. 道路を歩くときは、車に気をつけて歩く

学年が上がるに従って「いつも（気をつけて）あるく」割合が低下する傾向が見られる。



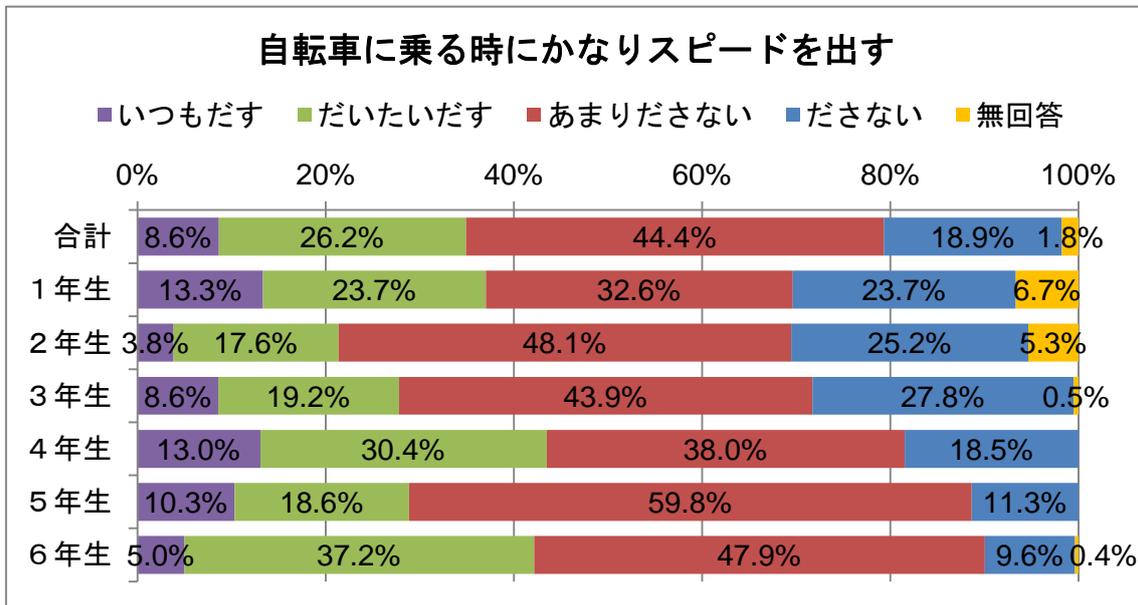
2. 道路をわたるときは、一度とまって右左を見る

学年が上がるに従って「いつも（右左を）みる」割合が低下する傾向が見られる。また、「いつもみる」と「だいたいみる」を合わせてみても、同様の傾向が見られる。



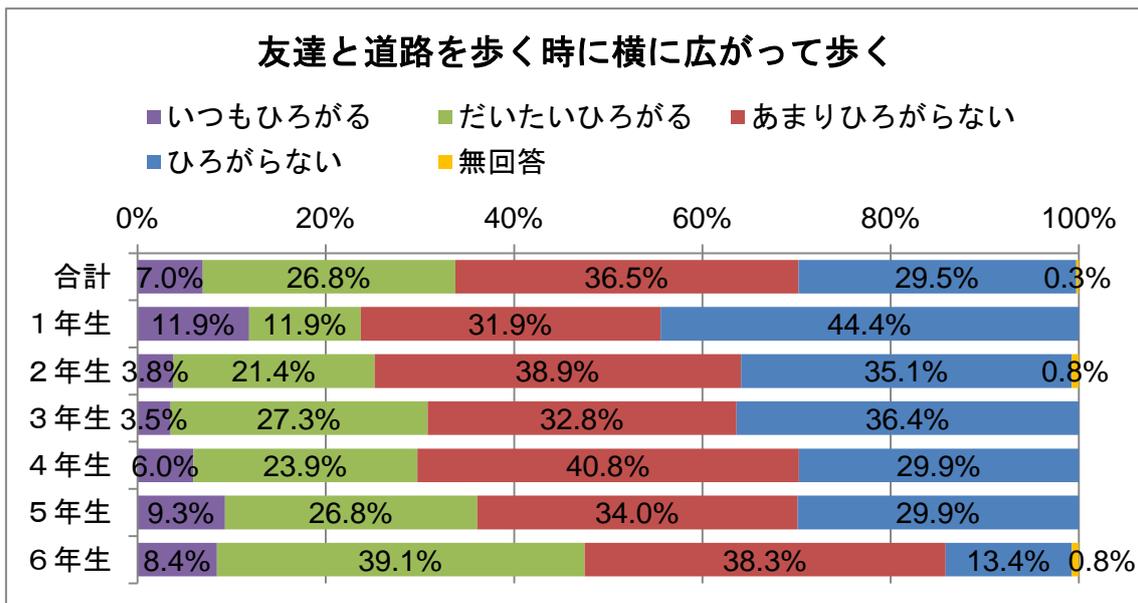
### 3. 自転車にのるときに、かなりスピードを出す

学年が上がるに従って「(スピードを) ださない」の割合が低下する傾向が見られる。



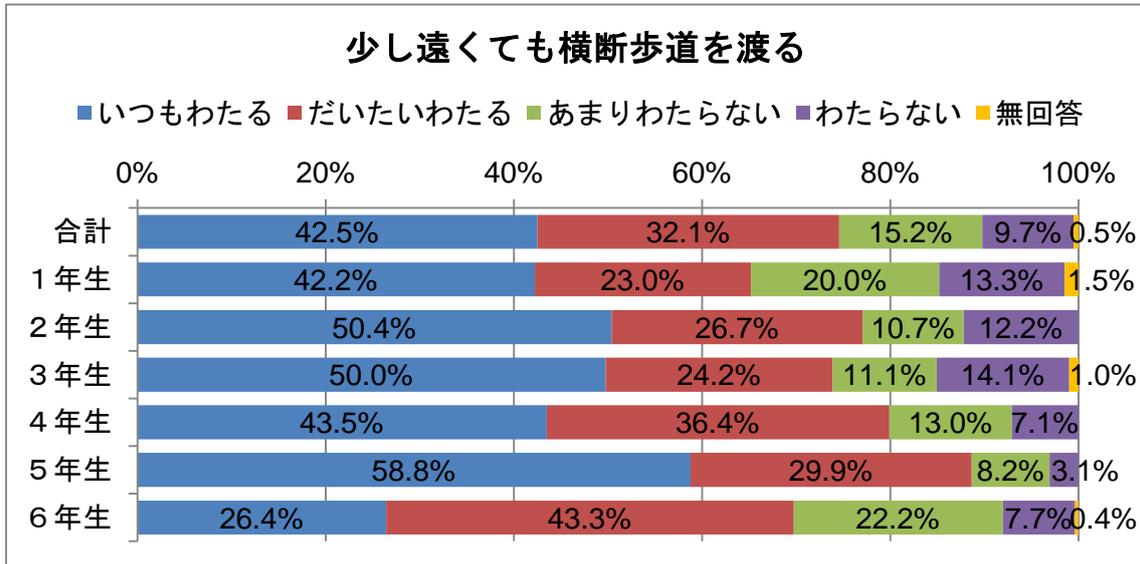
### 4. ともだちと道路を歩くときに、横にひろがって歩く

学年が上がるに従って「(横に)ひろがらない」の割合が低下する傾向が見られる。また、「ひろがらない」と「あまりひろがらない」を合わせて見ても、同様の傾向が見られ、「だいたいひろがる」については増加する傾向が見られる。



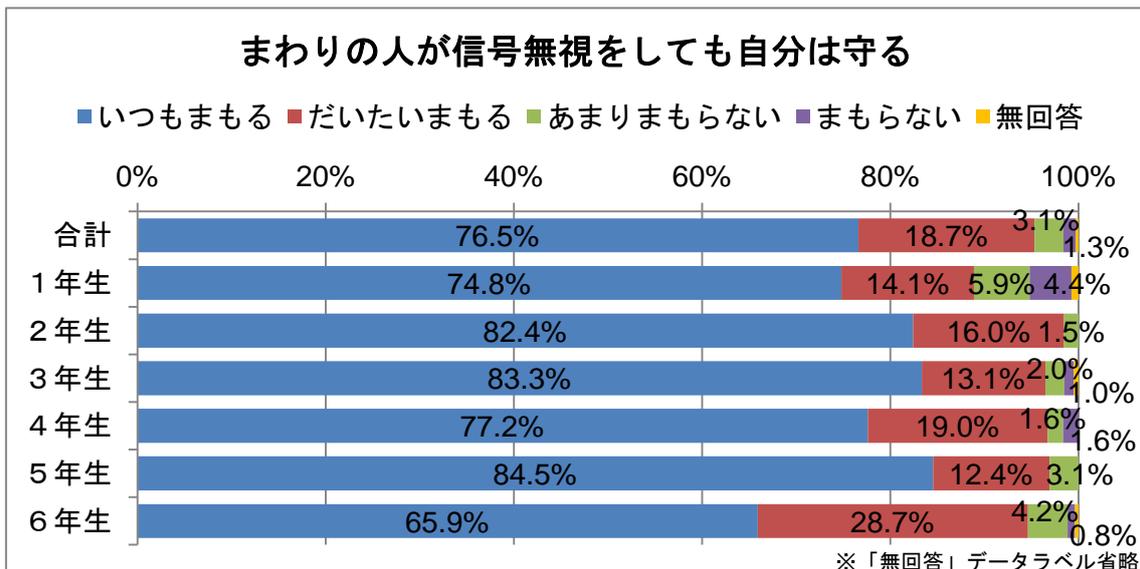
5. 横断歩道があれば、すこし遠くても横断歩道をわたる

6年生の「(横断歩道を) いつもわたる」の割合が、他学年と比較すると2分の1程度と、際立って低い。



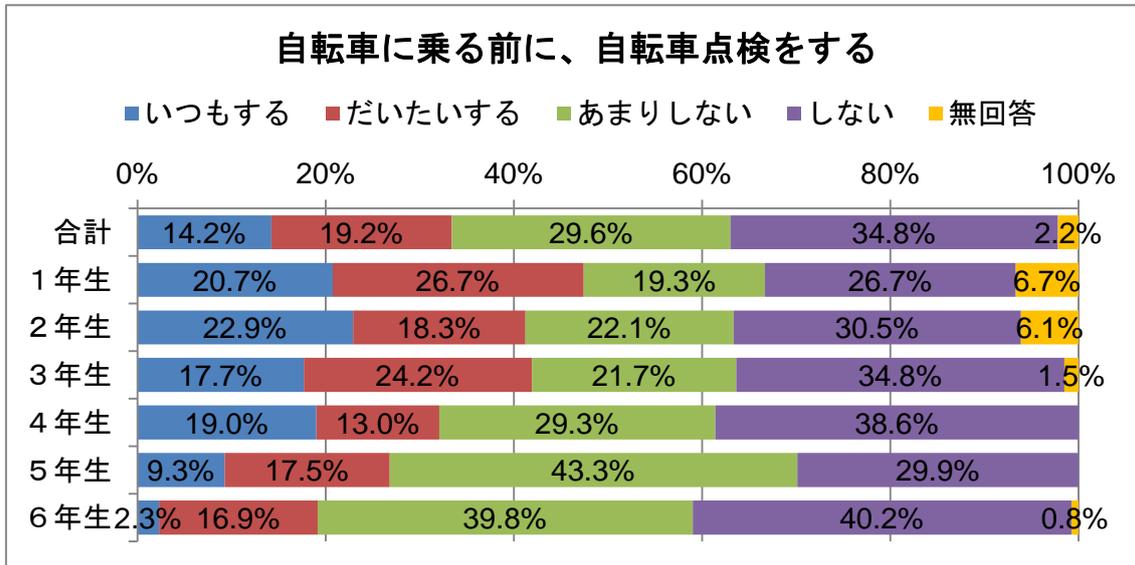
6. まわりの人が信号無視をしても、自分は信号をまもる

どの学年も、「いつもまもる」の割合が高い。6年生は「いつもまもる」の割合が低い、「だいたいまもる」と合わせて見れば、他学年と大差はない。



## 7. 自転車に乗る前に、自転車点検をする

どの学年も「あまりしない」「しない」の割合が高い傾向が見られる。また、学年が上がるに従って、「いつもする」「だいたいする」の割合が低くなり、「あまりしない」「しない」の割合が高くなっている。



## 4) 調査結果の考察

### a) 危険予測・回避テスト

- ・基本的に、危険予測と回避行動の双方とも事後の値が上昇している。これは、危険予測学習の授業を1時間実施しただけでも効果があったものと考えられる。
- ・「坂の下の一時停止無視」については、一時停止の標識の意味や交差点での危険について、日常的に学校や家庭で指導されているため、児童にとって危険を予測しやすいものと考えられる。それに伴う危険回避行動も適切に考えることができている。
- ・「右側通行」「歩道走行」「駐車車両の追い越し」については、目に見えない潜在危険を予測する児童が少なく、それに伴って危険回避行動を正しく考えにくくなっていると思われる。

### b) ルール・マナーのアンケート

- ・ほとんどの調査項目について、低学年ほど、ルールやマナーを守ろうという意識が高いが、高学年になるほど、ルールやマナーを守ろうという意識が低くなっている傾向にある。これは、慣れや過信といった気持ちのあらわれとも考えられる。
- ・事故に直結する項目「車に気をつける」、「信号を守る」などの項目は比較的守れているが、「ともだちと広がって歩く」、「自転車点検をする」など、事故と直結していない項目については、規範意識は低い。また、そのような例で事故にあったケースが自分の身の回りで起きていないことも意識の低下に結びついていると考えられる。

- ・「車に気をつける」については、「している」が全体の7割程であることから、歩行中の交通安全に対する意識は高い。
- ・「横断歩道をわたる」「信号を守る」については、ほとんどの児童が「している」と答えているので、基本的な交通規則・ルールは守っているといえる。
- ・「自転車点検をする」と回答している児童の割合が少ない。自転車の点検をおこなう習慣がほとんどない。また点検意識は児童によって違い、学校や家庭の働きかけによって個人差があるものと思われる。
- ・「歩くときは車に気をつける」「渡るときは右左を見る」「自分は信号を守る」は、「いつも」「だいたい」と回答する児童が多い。日常から道路歩行についての安全意識は高いためだと思われる。
- ・「自転車でスピードを出す」「友達と広がって歩く」については、高学年になるほど、「いつも」「だいたい」と回答する児童が増えている。低学年ほど、ルールを守ろうという意識が高いと考えられる。

## (5) 事業の考察と課題

### ①自転車交通安全教室

幼児や児童を対象に交通講話と自転車の実技体験を通じて安全意識を醸成する自転車教室をさいたま市と上尾市内の10ヶ所（点検含む）で実施した。

園児や児童にはこれまでの学んできたことの習慣化を図るため「ま（待つ）・み（見る）・む（無理をしない）・め（目立つ服装）・も（もしかして）」の合い言葉を指導のまとめに取り入れ、園児には自転車に慣れることや「3つの左」（左側から乗る、左側を走る、左側から降りる）、ブレーキを両手でかけること、ヘルメット着用の定着化を図った。

本教室は保護者が子どもと一緒に考える良い機会であるため、今後はより多くの保護者に参加を促して行きたい。

### ②交通安全教育の授業研究会

昨年度に続き本年度も、上尾市内のモデル校1校で「新たな安全教育指導プログラム」を活用した公開授業と研究協議を通して、本プログラムについての意見交換を行った。授業を担当された教師は小学校近隣の危険個所の画像や映像を取り入れ、児童がより学習効果を高められる身近な題材となる工夫も改訂を進める上で大変参考となった。

自転車交通安全教育ソフトの活用方法について、改訂した「新たな安全教育指導プログラム」のデータとその応用編として危険予測学習用アニメーションの素材、自転車安全マップ作成ソフトが活用できるCDソフトについて、今後はその活用と検証をモデル学校に広げ、現場の教師に気軽に活用してもらえよう内容の充実を図って行きたい。

### ③児童の危険予測・回避能力と意識調査

テスト・及びアンケートの結果からは、「日常的に具体的な指導を行うことが重要である」、「児童は交通ルールを知ってはいるが、遵守する意識との間にギャップがある」、「自転車点検をする習慣がない」という傾向が見られた。

自転車交通安全教室では、「信号機のある交差点での右折方法」「見通しの悪い交差点での一時停止」「駐停車車両の側方通行」といった、3つの具体的なケースを設定し、実技指導を行っている。今回の調査では、危険予測学習の授業後に、テストの得点が改善されるという結果が出た。自転車交通安全教室を行う際は、単にそれぞれのケースにおける正解例を示すだけでなく、幼児・児童が自ら危険を予測し、能力を高めることができるような指導を目指したい。

また、自転車点検について、行う習慣がないと回答した児童が多かった。自転車交通安全教室では、実技指導前に必ず点検についての講話を行っており、また、全

10回の自転車交通安全教室のうち、1回は「自転車点検教室」を行っている。今後とも、幼児・児童へ点検の重要性を教育していくとともに、保護者の方への啓発も進めていきたい。



自転車交通安全教育地域一体型プロジェクト  
報 告 書

---

発行 平成26年3月  
一般財団法人日本交通安全教育普及協会  
〒106-0031  
東京都港区西麻布3-24-20  
TEL 03-3478-1831 (代)  
FAX 03-3478-1835

---